



畑作・野菜・花き生産情報 第7号

令和3年10月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- ◎大豆やながいもは、適期収穫で良品生産に努めよう！
- ◎小麦は、ほ場の排水対策と雪腐病防除を徹底しよう！
- ◎秋ギクは、適正な温度管理と病害虫の早期発見・早期防除に努めよう！

畑作物

1 大豆

(1) 生育状況

早いところでは収穫適期に達している。

表-1 大豆の生育状況 (10月18日現在)

場 所	年 次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	開花期 (月日)	成熟期 (月日)
農林総合 研究所 (黒石市)	本 年	5/26	6/5	7/25	10/9
	(平年差)	(1日遅)	(±0日)	(2日早)	(2日早)
	平 年	5/25	6/5	7/27	10/11
野菜研究所 (六戸町)	本 年	5/14	5/22	7/20	10/17
	(平年差)	(1日早)	(3日早)	(6日早)	(4日遅)
	平 年	5/15	5/25	7/26	10/13
藤 崎 町 (西中野目)	本 年	6/3	6/11	7/23	-
	(平年差)	(±0日)	(2日早)	(6日早)	-
	平 年	6/3	6/13	7/29	10/15
五所川原市 (金木町嘉瀬)	本 年	6/10	6/20	8/1	10/13
	(平年差)	(5日遅)	(7日遅)	(1日遅)	(±0日)
	平 年	6/5	6/13	7/31	10/13
十和田市 (切田)	本 年	6/4	6/10	7/28	10/12
	(平年差)	(2日早)	(5日早)	(7日早)	(5日早)
	平 年	6/6	6/15	8/4	10/17
	前 年	6/6	6/11	8/3	10/19

注) ①品種は「おおすず」

②平年値は、農林総合研究所が過去15か年、野菜研究所が過去14か年、藤崎町が過去10か年、五所川原市が過去10か年、十和田市が過去20か年の平均値

③藤崎町は、10月18日時点で成熟期に達していない。

(2) 今後の留意点

ア 収穫適期の目安

コンバインによる収穫適期は、茎水分50%以下（主茎の中央部を爪でこすっても、表皮が乾いてむけない状態になった頃）、子実水分20%以下となった時期である。

イ 収穫

(ア) 収穫が遅れるとしわ粒や紫斑病などの被害粒が増加し、収量や品質が低下するので、収穫適期に達したほ場では計画的に行う。

(イ) ほ場内の雑草や青立ち株は汚損粒の原因となるので、収穫前に必ず抜き取る。

(ウ) 収穫は、朝露等による湿りがない時間帯（一般的には午前10時～午後4時）に実施する。

(エ) コンバイン収穫では、土のかみ込みによる汚損粒の発生を防ぐため、無理に地際部まで刈取らない。

ウ 乾燥調製

(ア) 乾燥は、検査規格の子実水分15%以下に仕上げる。

(イ) 乾燥を始める初期子実水分はできるかぎり、20%以下にする。また、乾燥速度は0.3%/時以下のゆっくりとした速度で乾燥し、急激な乾燥は避ける。高水分の場合、直ちに熱風を当てるのではなく、初めは通風乾燥のみを行い、20%以下になってから温度をかける。

2 小 麦

(1) 生育状況

は種後の生育は、おおむね良好である。

(2) 今後の留意点

ア 湿害や雪腐病を防止するため、明きよの設置など排水対策を徹底する。

イ 耐倒伏性の向上や凍霜害の回避のため、10月下旬から11月中旬にローラー等で麦踏みを行う。ただし、粘土質土壌や転作田など排水の悪いほ場では、生育が阻害されるので行わない。

ウ 雪腐病の防除のため、11月中旬から下旬に薬剤散布を行う。なお、散布後に一度積もった雪が溶けても再散布の必要はない。

エ 越冬後の追肥は基本的に2回行う。1回目は消雪後から幼穂形成期に、2回目は止葉抽出期から出穂期に実施する。1回あたりの追肥量は窒素成分で2kg/10aを基準とする。

表－2 雪腐病の種類と主な薬剤

雪腐病の種類	薬剤名 (RACコード)
紅色雪腐病	ベフラン液剤25 (F:M07)
紅色雪腐病、 雪腐小粒菌核病	オキシンドー水和剤80 (F:M01)、キノンドー水和剤80 (F:M01)、キノンドー水和剤40 (F:M01)、キンセット水和剤80 (F:M01)、ベフキン水和剤 (F:M07, M01)、フロンサイド水和剤 (F:29)
雪腐小粒菌核病	バシタック水和剤75 (F:7)、リゾレックス水和剤 (F:14)、リゾレックス粉剤 (F:14)
褐色雪腐病	ランマンフロアブル (F:21)

野 菜

1 ながいも

(1) 生育状況

ア いも径は平年並～平年を下回っているものの、いも長、いも重は平年並となっている。

イ 8月の大雨や低温・日照不足の影響で、いもにくびれやコブ、溝などが一部ほ場でみられる。

ウ 9月末頃から茎葉の黄化がみられる。

表-3 ながいもの生育状況 (10月10日現在)

場 所	年 次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	つるの ネット頂 到達日 (月日)	10月10日			
					茎葉重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)
野菜研究所 (六戸町)	本 年 (平年差・比)	5/25 (±0日)	6/18 (6日早)	7/17 (3日早)	606.0 (110%)	79.0 (103%)	1,469.6 (106%)	72.7 (105%)
	平 年	5/25	6/24	7/20	552.4	76.6	1,389.5	69.1
	前 年	5/25	6/25	7/23	654.3	80.2	1,380.9	64.1
五戸町 (上市川)	本 年 (平年差・比)	5/3 (9日早)	6/10 (5日早)	7/7 (1日早)	— (—)	100.9 (116%)	1,286.5 (98%)	55.8 (89%)
	平 年	5/12	6/15	7/8	—	86.7	1,313.5	62.7
	前 年	5/5	6/11	7/10	—	88.0	1,304.7	60.1
東北町 (野田頭)	本 年 (平年差・比)	5/12 (2日早)	6/2 (5日早)	7/4 (8日早)	— (—)	67.8 (97%)	971.0 (97%)	51.6 (91%)
	平 年	5/14	6/7	7/12	—	70.0	997.2	57.0
	前 年	5/14	6/10	7/10	—	72.3	876.0	55.5

注) ①平年：野菜研は平成30～令和2年の3か年の平均値

五戸町は平成14～令和2年の19か年の平均値

東北町は平成20～令和2年の13か年の平均値

②種子：野菜研は園試系6の1年子(90～110g)ガンク切除

(ガンク切除時期は植付30日前、前年までは植付15日前の頂芽切除)

五戸町は庄司系の2年子(120～150g)頂芽切除

東北町は庄司系の1年子(80～120g)頂芽付

③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)

五戸町は畦幅120cm×株間22cm(3,788株/10a)

東北町は畦幅110cm×株間21cm(4,329株/10a)

④調査日：本年は10月11日

(2) 今後の留意点

ア 収穫

(ア) 収穫は、茎葉が完全に黄変し、試し掘りでアクが発生しないことを確認してから開始する。

(イ) 掘取りに当たっては、表皮を傷つけたり、直射日光や風に当てることがないように注意する。

(ウ) 雨天など過湿なほ場条件での掘取作業は、貯蔵中の腐敗を招くので行わない。

イ 茎葉・ネットの適正処理

茎葉の絡んだ「ながいもネット」は、堆肥化等により減量し、ネットと茎葉を分別した上で適正に処理する。

2 秋冬だいこん

(1) 生育状況

は種後の大雨や8月中旬の低温・日照不足により、初期の生育が抑制されたため、葉長、葉数、根重は平年を大きく下回っている。

表－4 秋冬だいこんの生育状況（10月10日現在）

場 所	年 次	は種期 (月日)	10月10日			収穫期 (月日)	は種から収穫 までの日数 (日)
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)		
東北町 (野田頭)	本 年	8/7	38.5	16.8	619.7	—	—
	(<small>平年差・比</small>)	(<small>±0日</small>)	(89%)	(78%)	(65%)	—	—
	平 年	8/7	43.4	21.6	947.0	10/11	65
	前 年	8/5	42.7	25.4	1021.0	10/9	65

注) ①平年：平成13年～令和2年の20か年の平均値

②品種：夏の翼

③栽植様式：畦幅50cm×株間23cm、1条植え（8,696株/10a）

④調査日：本年は10月11日、前年は10月9日

(2) 今後の留意点

収穫は、ほ場毎に試し掘りで肥大状況を確認してから行う。

3 冬のハウス栽培の留意点

(1) 降雪、強風等に備えて、ビニールやマイカ線などの点検・補修を行う。

(2) 二重被覆などにより保温効率を高めるとともに、暖房機の着火装置などの保守点検を行う。

(3) ハウスからの放熱を防ぐため、被覆資材の破れを修復するほか、つなぎ目の隙間をふさぐ。

(4) 古い被覆フィルムは採光性が劣ることがあるので、透過性の高い新しいものに替えるようにする。

(5) ハウス内は、循環ファン等を設置して温度ムラを減らすとともに、時間帯に応じた細やかな温度管理ができる変温装置を活用したり、暖房機の温度を生育適温の下限に設定するなど省エネ対策に努める。

花き

1 秋ギク

(1) 生育状況

生育は順調である。

病害虫はアザミウマ類やアブラムシ類が散見される。

表－5 秋ギクの生育状況（10月10日現在）

場 所	年 次	品 種	定植月日 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	備 考
五所川原市	本 年	神 馬	7月8日	118.5	64.7	2本仕立て
	(平年差・比)		(3日遅)	(101%)	(99%)	
	平 年	神 馬	7月5日	117.6	65.4	2本仕立て
	前 年	神 馬	7月2日	114.3	71.9	2本仕立て

注) 平年：平成22～令和2年の11か年の平均値

(2) 今後の作業

ア 病害虫防除

白さび病や灰色かび病の予防を定期的に行うほか、アザミウマ類等の害虫の防除を徹底する。

イ 収穫

2～3分咲きを目安に採花するが、出荷先により異なるため事前に確認する。

2 キクの親株育成

(1) 今後の作業

ア 親株の整理

親株には、生育が劣る株、病害の感染が疑われる株、害虫の被害がある株を抜き取り、健全なものを用いる。

イ 親株の伏せ込み

伏せ込みは、10月下旬までに日当たりと排水の良いハウスで行う。11月にずれ込んだ場合は、活着を促すためトンネル等を設置する。

ウ 親株の伏せ込み後の管理

伏せ込み直後は、十分にかん水して活着を促し、活着後は5℃以下の低温に十分に遭遇させる。

白さび病や灰色かび病の予防を定期的に行うほか、アザミウマ類等害虫の早期発見・早期防除に努める。

本年度の畑作・野菜・花き生産情報は今回で終了します。

来年度は4月から発行する予定です。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎秋の農作業安全運動展開中！（8月15日～10月31日）

- 1 慣れた作業でも油断せず、しっかり安全を確認しましょう。
- 2 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
- 3 自分は「大丈夫」と過信せず、無理のない作業を行いましょう。

4 一人での作業は避け、やむを得ず一人で作業を行う場合は、家族に作業場所と内容を伝え、携帯電話を持ちましょう。

5 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼び掛けましょう。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中！ ～元気な作物は健康な土が育みます～

土壌診断に基づいた適正施肥や土壌改良は、施肥コストの低減にもつながります！

緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壌環境づくりを心がけましょう！

効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！

◎農薬は適正に使用しましょう。

1 農薬を使用する際は、事前に必ず最新の登録内容を確認し、使用基準を守って使用しましょう。

農林水産省【農薬登録情報提供システム】

<https://pesticide.maff.go.jp/>

(独)農林水産消費安全技術センター【農薬登録情報・速報】

https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

2 飛散防止に努め、住宅地等の近隣で使用する際は、事前に周囲に知らせましょう。

3 クロルピクリン剤など土壌くん煙剤を使用する際は、住宅、畜舎等に近接する農地での使用は避け、薬剤の施用後は速やかにシート（厚さ0.03mm以上または難透過性の資材）で被覆しましょう。

4 市販の除草剤には、農作物等の栽培管理に使用できない「非農耕地専用除草剤」があるので、注意しましょう。

5 農薬は使い切りを徹底し、河川等には絶対に捨ててはいけません。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

1 栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。

2 家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。

家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が3日以上続いている状態が必要です。

3 家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は2か月、土壌に近い野菜は4か月以上空けましょう。

4 農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。

※ 野菜の衛生管理の詳細はこちら

→https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/yasai_eiseikanri.html



◎農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！！

農業保険には、農作物共済、園芸施設共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

◎農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象になる総合的なセーフティネットです。（青色申告の実施が要件）

<野菜のみ> -----

令和3年から、「農業経営収入保険」に加入した1年目に限り、「野菜価格安定制度」との同時加入が認められました。現在、価格安定制度に加入しており、収入保険に興味のある方は、ぜひ御検討ください。

また、収入保険の加入申し込みは随時受け付けていますが、今年から、農林水産省

の共通申請サービスを利用することにより、自宅のパソコンなどからオンラインで申請できるようになりました。事務費の割引もありますので、これを機に加入をご検討ください。

※ 詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

連絡先 農産園芸課
稲作・畑作振興グループ
県庁内線 5073
直通 017-734-9480

野菜・花き振興グループ
県庁内線 5076
直通 017-734-9485

県民の皆さまへのお願い
新型コロナウイルス感染拡大防止



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>